

(仮) 円山動物園ポスト基本構想

第三回検討部会

平成 30 年 2 月 7 日 (水) 14:00～17:00

札幌市円山動物園 動物プラザ

議事次第

1. 開会

2. 議事

(1) 報告

- ア) ポスト基本構想策定に伴う取組の進捗
- イ) ポスト基本構想に代わる名称
- ウ) 理念 (キャッチフレーズ) の候補
- エ) 構想 (経営方針) 文案の進捗状況

(2) 意見交換

- ア) ポスト基本構想に代わる名称、理念 (キャッチフレーズ) の候補
- イ) 円山動物園の理念、役割、目指す動物園等

3. 閉会

ポスト基本構想策定に伴う取組の進捗

1 職員プロジェクト

(1) 実施日

10月から毎週木曜日に開催(年末年始除く)。2月1日までに15回開催。

(2) メンバー構成

動物専門員5名、獣医1名、飼育展示課事務職員2名、経営管理課事務職員2名の合計11名。

2 来園者アンケート

(1) 実施期間

平成29年12月24日(日)～平成30年1月22日(月)のうち10日間。

(2) 実施方法

動物園正門及び西門において、退園者に対し協力依頼を行い、アンケート回答者には粗品(ステッカー)を贈呈することにより実施。

(3) 回答数

425枚。

3 市民意識調査

(1) 調査期間

平成30年1月12日(金)～1月26日(金)

(2) 実施方法

札幌市広報部において、住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民5千人に調査票を郵送することにより実施。調査は、動物園のほか、4つの部署からの調査を併せて実施。

(3) 返信数

約2,600通。

4 子ども(小学生3年生～中学生)を対象としたワークショップ

(1) 実施日

平成29年12月3日(日)10:00～15:00

(2) 実施方法

広報さっぽろへの掲載のほか、動物園内やホームページ、地下鉄円山公園駅等にポスターを掲示することにより先着20名を募集。当日は4名欠席、16名の参加。午前中は園内見学、午後は園内見学で感じたことなどの意見交換を実施。

5 大人（18歳以上）を対象としたワークショップ

(1) 実施日

平成30年2月4日（日）13:00～16:30

(2) 実施方法

住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2千人に調査票を郵送することにより参加者20名を募集。応募数100名。26名に参加決定通知を送付し、当日は22名の参加。園内見学のほか、動物園の社会的役割などについて意見交換を実施。

6 シンポジウム「北海道の動物園の未来を語ろう！」（予定）

(1) 実施日

平成30年3月11日（日）13:00～16:00

(2) 内容

神奈川大学諸坂准教授を招き法律学から見る現代の動物園に求められる役割などについて講演いただくとともに、道内他動物園水族館園長や一般市民とともに、これからの円山動物園の役割などについて考える。

1 ポスト基本構想に代わる名称案

円山動物園経営方針

「円山動物園の進む道

～これからの円山動物園～」

2 理念（キャッチフレーズ）の候補

- 受け継いでゆく、命の灯火
- ともに感じよう、生命(いのち)の系譜
- 感じよう、生命(いのち)の系譜
- 守る命、繋がる未来
- 人と動物の共存のために、「機能」し続ける動物園
- 命がわかる。ここは札幌、円山動物園
- 命とともに進む

円山動物園 経営方針

『円山動物園の進む道 ～これからの円山動物園～』

1 設置目的（円山動物園は、以下の目的で設置され、運営されています。）

円山動物園は、周囲に円山原始林があるという、この円山の豊かな自然環境の中で、動物との出会いや別れを通じて、市民及び来園者に人間性の再創造・回復（リ・クリエーション）の場を提供するとともに、自然及び命の大切さについて学び、市民及び来園者のひとり一人が、地球で暮らす生き物の一種として、環境と共生した生活をしていくための場を提供します。また、世界規模での生物多様性を維持していくとともに、日本国内だけでなく、世界各国の動物園が、今後とも持続可能であるよう、北海道固有種や希少種を中心とした動物を飼育・展示し、しっかりと命をつないでいきます。

2 実施事業（円山動物園では次の事業を行っていきます。）

- （1）動物の飼育、繁殖、管理を行います。それらに関する活動を記録し、必要に応じた情報提供を行います。
- （2）動物の展示、解説、教育活動を行います。
- （3）野生動物に関する保全活動、調査・研究、普及啓発活動を行います。
- （4）環境保全に資する活動を行います。
- （5）そのほか、状況に応じて必要な活動を行います。

3 円山動物園の理念

円山動物園は、「まもる・つたえる・はぐくむ・つながる」を合言葉に、以下の理念を掲げます。

- （1）生物多様性を保全し、持続可能な地球環境の維持に貢献します。野生動物を保全するとともに、生息地の保全にも寄与します。
- （2）来園者に楽しさや感動を与え、記憶に残る体験を提供します。それらを通じて、動物の素晴らしさや魅力、生態系の大切さを伝えます。
- （3）飼育動物の生活の質を高める工夫を、常に探求し、取り入れていきます。最新の情報や知見を利用し、動物たちを最良の飼育環境で育むとともに、それらを実践できる人材を育成します。
- （4）様々な立場の方といっしょに保全活動や普及啓発活動を勧めます。また、動物園が中心となって、連携する絆をつくりあげる役割も果たします。

→（1）保全、（2）教育（3）動物福祉、（4）連携を念頭においている。

4 円山動物園の役割

(1) 札幌市における円山動物園の役割

円山動物園は、円山原始林という豊かな自然環境に隣接しています。この円山原始林を中心として、札幌の豊かな自然を理解し、札幌市民の生活にとって欠かせない地域の生態系を守ることに貢献します。また、身近な生き物への関心を高め、大切にすることを醸成することに努めます。札幌市民に、安全かつ快適な憩いの場、学びの場を提供します。市内で活動する市民団体や、学校、企業などの連携を促す役割を果たすとともに、札幌市の発展に寄与する新たな人材を育成し、次世代を育みます。北海道の自然に対する学習機会を提供しながら、地元への愛着も涵養していきます。

(2) 日本における円山動物園の役割

北海道は、日本の中でも固有の生物相を有する貴重な地域であり、国内で北海道だけに生息する種も数多くいます。北海道の固有の生物種を保全し、普及啓発に取り組むことは、北海道の動物園としての重要な役割です。また、国内の他園館や、研究機関などと連携して、日本国内における希少種の保全に貢献します。南北に長く気候条件の多様な日本の中で、冬期の動物の魅力を伝えることは、寒冷地に立地する円山動物園ならではの役割といえます。また、札幌は、国内有数の観光地でもあり、北海道はもとより、日本に生息する野生動物を、海外からの来訪者に紹介し、日本の自然の豊かさや野生動物の魅力を伝えることも、円山動物園の役割です。

(3) 世界における円山動物園の役割

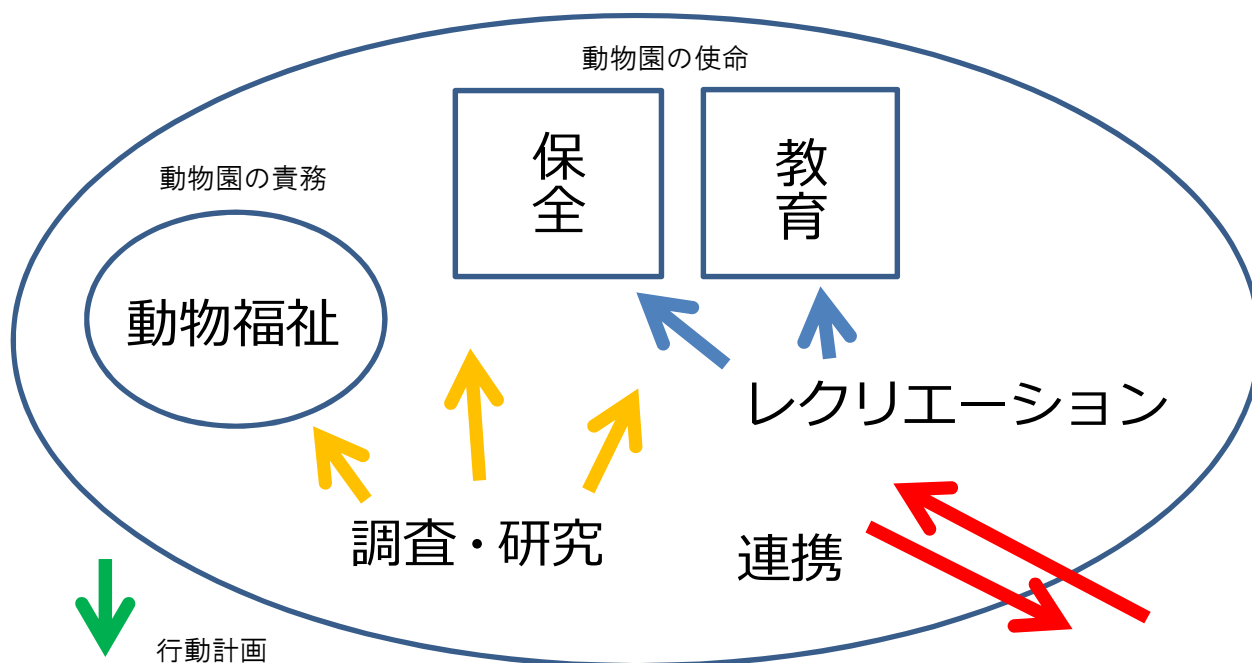
地球上の豊かな生物多様性を実感し理解するためには、様々な生物を同時に観察したり比べたりすることが有効です。異なる地域に生息する動物を学べることは、動物園の大きな特徴です。また、世界には、絶滅が危惧される生物種が数多く存在します。そうした生物は、世界中が協力して保全活動に取り組む必要があります。円山動物園もその役割の一端を担うべく、国外の希少種の飼育、繁殖、研究、普及啓発に力を注ぎます。私たちは、日常の生活において、国外にもさまざまな影響、環境への負荷を与えているため、国外の自然環境に目を向けることも必要です。自分たちの生活と、海外の野生動物の生息地環境との関係を伝え、札幌市民をはじめすべての日本国民に、地球規模の環境問題への意識を高めてもらうことも大事な役割です。

5 円山動物園が目指す動物園

- すべての来園者に、楽しく快適な時間を過ごしてもらえる動物園。
- 多くの市民に愛され、地元の誇りに思ってもらえるような動物園。
- 環境保全の専門家として、市民から頼りにしてもらえる動物園。
- 飼育するすべての動物が、幸せに暮らしていける動物園。
- 人と動物と環境の絆をつくる動物園。

6 今後の動物園運営の方向性

円山動物園では、まず「保全」と「教育」の二つを、運営の柱として位置づけます。動物園が、野生動物種を飼育する意義として、それら野生動物の個体群や生息地の保全に貢献すること、野生動物の魅力や現状を伝えることが使命だと考えています。この二つの柱を効果的に実施するためには、なにより動物園が楽しく居心地のよい「レクリエーション」の場であることが大事だと考えています。一方、飼育するすべての動物が健康で快適に暮らせるようになるための「動物福祉」への配慮は、動物園の責務だと考えます。これら「保全」「教育」及び「動物福祉」を含めた動物園に関わる全てのことに對して「調査・研究」に取り組みます。また、円山動物園が使命や責務を果たしていくためには、他の動物園・水族館、外部の関係機関、そして市民と「連携」が欠かせません。



6-1 保全について

- ・近年、地球上の動植物種がかつてない速さで絶滅しているなか、動物園は非常に重要な役割を担っています。
- ・伴侶動物（犬や猫）や畜産動物（牛や豚）ではなく、野生動物種を飼育する動物園は、たんに動物を飼育し展示するだけでなく、野生動物種の自然環境下での個体群の維持、生息地の保全に貢献する必要があります。
- ・「保全 Conservation」には様々な対象が含まれます。円山動物園でも、地域の生態系の保全、生物多様性の保全、国際的な絶滅危惧種の保全など、多様な対象について取り組みます。
- ・野生動物の生息環境の現状を理解し、来園者に正しく伝えるため、円山動物園で飼

育展示する動物の本来の生息地に赴いたり、地域の保全活動に参加したりするなど、現地と動物園をつなぐ取組みも行います。

- ・地球上の生物多様性を維持するためには、様々なスケールでの保全が必要です。遺伝子レベルの多様性の維持に向けては、野外個体群の状況も踏まえて飼育下での血統管理や遺伝的多様性の管理を行います。種レベルの多様性の維持に向けては、希少性を問わず北海道や札幌の様々な動植物種の保全に貢献します。また希少種の人工繁殖や野生復帰にも取り組みます。生態系レベルの多様性の維持に向けては、動物園外での活動も取り入れ、森林や河川など生態系の保全に積極的に関わっていきます。

- ・本来の生息地で個体数を減少させている野生動物種にとって、動物園は個体群維持のための貴重な生息地の一部と考えることができます。動物園ではこうした希少種・絶滅危惧種の飼育や繁殖に取り組みます。

- ・地域の生態系を適切に保全するためには、野生動物の個体数管理や、外来生物の除去・拡散防止にも関わっていきます。

- ・円山動物園は、多くの大木が残る緑豊かな円山公園の一面をなし、原始の姿を今にとどめる円山原始林とも隣接しています。円山動物園は、この豊かな地域の自然環境を守る活動に積極的に関わります。円山動物園と円山原始林との繋がりを感じられるよう、昆虫や植物も含めた生態系保全に取り組みます。

- ・自然エネルギーを導入する、環境負荷の小さな商品の選択、温暖化防止につながる対応（公共交通機関を使用する、不要な冷暖房を軽減する）、汚染につながる廃棄物の分別や削減など、地球環境の保全につながる行為を園内でも取り入れます。

6-2 教育について

- ・動物園は生きた動物を展示する博物館です。動物の生の姿、声、匂いを実際に感じることで、テレビやインターネットとは異なる、本当の生命を実感してもらうことが動物園の大きな特徴です。来園者に豊かな感性を育んでもらえるよう、展示の仕方を常に改善し、よりよい伝え方を考えていきます。

- ・手法として、解説ガイド、サイン、展示デザイン、講演会、講師派遣などを通して貢献します。

- ・サイン（解説看板）は、たんに展示動物の情報を提供するだけでなく、より関心や興味を深めてもらえるようなものへと改善していきます。たとえば、飼育動物の本来の生息環境に思いを馳せてもらう、野生下での現状についても考えてもらえるよう工夫します。園内で暮らす動物の力を借りて、生息地保全の普及啓発につなげる取組みを行います。

- ・動物園を訪れたことをきっかけに、普段からより野生動物に親近感が持てたり、身近な生き物への関心が高まるなど、動物園を入り口として野生動物や自然環境への関心を引き出せるよう工夫します。

- ・動物園を取り巻く円山の自然環境を守る行動からは札幌ひいては北海道の「地元の

自然環境を思う気持ち」などのメッセージを伝える機能をもっています。

- ・子どもだけでなく、大人にも満足してもらえる学術的な内容や、幅広い年齢層に対応できるプログラムやサインを導入します。
- ・動物の多様な生態や行動は、恵み豊かな環境を大切に思う心をはぐくむ機能を持っており、自発的に環境行動をとる動機付けの場ともなりえます。
- ・来園者が参加できるプログラムを充実させます。バックヤードを用いた見学・体験プログラムをはじめ、野外での調査活動や自然観察会を通して、地域の生態系に関する普及啓発を実施します。
- ・適切な野生動物との付き合い方を考え、それを来園者や市民に伝えることも必要です。野生動物種の飼育展示を通じて、愛玩動物（ペット）とは異なる、野生動物とのつきあい方、生命観を考えてもらう場を目指します。
- ・学校教育にも有効に利用してもらえるサインやプログラムを作成します。学校教育との連携を深めるため、園内を活用した環境教育プログラムを積極的に小中学校に向けて発信していきます。また、より動物や閑居うへの理解を促すための教材の開発、博物館や外部の自然観察会などとの連携により、発展的な教育を目指します。
- ・動物園全体のデザイン（トータルデザイン）も、円山動物園のコンセプトやメッセージを伝えるために重要な意味を持ちます。展示やサインだけでなく、施設の造形や外観、構造物など、隅々に至るまで、重要な教育教材となりえます。隅々まで教育的な配慮が行き届くような施設を目指していきます。
- ・動物園が、メッセージやコンセプトを伝えるだけでなく、円山動物園自体も札幌市民や来園者、イベント参加者らとともに学び、考え、成長していきます。

6-3 レクリエーションについて

- ・世の中には、多様な趣味や娯楽が存在します。動物に関心を持ち、観察したり知識を得ることを楽しむことも、子供から大人まで非常に浸透したレクリエーションのスタイルの一つです。円山動物園は札幌市の公共施設として、札幌市民に良質なレクリエーションを提供する役割を担います。動物に関する知的好奇心や娯乐的欲求を満たせるような、楽しく居心地のよい時間と空間を提供できるよう努力します。
- ・動物園では、たくさんの「感動」を通して、動物の不思議さや魅力を感じてほしいと願っています。間近に見られる姿、自然な景観の中に溶け込んでいる姿など、動物の展示方法を工夫し、多様な楽しみ方を提供できるよう取り組みます。
- ・より楽しんでもらうために、サインなどの展示物について工夫を凝らしたり、体験型のイベントや、案内ガイド、特別展の実施などの取り組みを充実させます。
- ・動物を観察したりサインを閲覧したりするだけでなく、動物の絵を描いたり、写真をとったり、お弁当を食べたり、くつろいだりと、様々な利用の仕方を満足してもらえるよう、安全で快適な空間を目指します。
- ・円山動物園は、誰もが気軽に訪れることができ、安全に楽しく、気持ちよく過ごせ

る場所でなければなりません。そのためには、利用者の声をよく聞き、ニーズに合った施設づくりを行います。職員全員が、来園者への対応、案内、解説の技能の向上を目指します。

- 売店や食堂施設なども含めて、動物園全体で楽しんでもらえるよう。細部にまで配慮して、動物園全体のトータルコーディネートをこころがけます。

6-4 動物福祉について

- 動物を飼育する上で、動物福祉に最大限に配慮ことは動物園の責務です。最も適した飼育方法や健康管理を行うよう、つねに最先端の試みや新たな情報と技術を取り込み、改善する努力を続けます。

- 動物福祉を充実させることは、なにより来園者に楽しんでもらうために必要です。動物たちのいきいきとした姿を見てもらうことが、動物園が提供すべき最も大事なレクリエーションだといえます。動物園を憩いの場として機能させるためにも、動物福祉に配慮することで、気分よく動物を見てもらいたいと考えています。

- 動物福祉を充実させることは、研究や教育面での効果も伴います。本来の行動と乖離した不自然な状態は正しい調査・研究の妨げとなるため、動物福祉の実践は動物を研究する上で不可欠です。また、できるだけ本来の行動を来園者に見てもらうことは、動物に対する理解を深める教育的効果にもつながります。

- 動物にとっての苦痛を減らしたり、異常な行動の発現を抑えることはもちろんですが、野生動物種を飼育するうえでは、可能な限り本来の行動をとる、もともと持っている能力を発揮できるような環境をつくるよう、継続して改善を目指します。

- 本来の生息域になるべく近い環境、あるいは各動物種の生態にあわせた環境を作り出せるよう、動物舎のデザインの改良、飼育環境の改善に努めます。

- つねに新たな環境エンリッチメント（よりよい福祉状態を実現するために、動物に課題と選択の機会を与えること）を導入し、動物の生理的・行動的な要求を満たせる機会をあたえて、行動バリエーションを豊かにする取り組みを進めます。

- 動物たちに、飢えや渇きを感じさせず、本来の食性をしっかり考慮したうえで、栄養面をふまえた正しい飼料を提供します。

- 万全の医療体制を整え、質の高い獣医療の導入を目指します。日頃から動物診療技術の向上に努め、動物たちの病気や痛みに対して、適切な獣医療を施します。

- 必要な医療行為や健康管理であっても、ときに動物たちに辛い思いをさせることもあります。動物たちの恐怖や抑圧をできるだけ取り除けるよう、適切なハズバンドリートレーニング（診察や治療を受けやすくするための普段からの訓練）を取り入れます。

- 適切に動物福祉の取り組みが進められているのか評価するため、モニタリング手法を確立させ、ガイドラインを整備します。生理的な指標、臨床的な指標、行動観察など、科学的な基準を導入して、動物の福祉の達成を評価します。

- ・求められる動物福祉の状態を達成するためには、飼育面積の確保も必要です。計画的かつ適切に、飼育種数や飼育個体数を検討していきます。
- ・動物福祉の概念や達成手段は非常に多様です。職員が共通の認識をもてるよう互いに情報や意見の交換を重ね、動物園をあげて飼育の質を高める努力を続けます。

6-5 調査・研究について

- ・動物園で取り組む調査や研究としては、動物の生理や行動に関する内容、獣医的な内容などが主な対象ですが、それ以外にも、たとえば動物園の効率的な経営や利用者の動態といった運営に関する研究、野外の保全活動に寄与するための研究など、動物園に関係するすべての項目に対して、調査や研究が必要です。円山動物園は、動物園に係る様々なテーマについて、データや知識を集積し研究を進めます。
- ・野生下での生態や行動が分かっていない動物種は数多くあります。動物園の飼育動物を対象とした研究は、野外での研究を補完し、野生動物の保全に大きく貢献することが可能です。円山動物園は、研究機関や市民団体と協力して、野生動物種の生態の解明に取り組めます。
- ・人類は、伴侶動物や畜産動物など、様々な目的で動物を飼育しています。動物園が取り組む繁殖や飼育に関する研究、最適な飼育環境を整えるための動物福祉に関する研究は、動物園だけに限らず、広く世の中の動物の飼育状況の改善に役立ちます。
- ・調査・研究をより効果的に進められるよう園内の体制を整備します。できるだけ多くの職員が、調査・研究に携わることのできる時間と環境を整えるとともに、外部機関との共同研究を効率よく提携できるよう、また外部からの研究協力の要請に対応できるような体制を作ります。
- ・調査や研究の結果を、可能な限り学会や論文で公表し、関係機関に情報を提供します。また、市民向けの報告会を実施したり、報告書を作成したりして、市民にも分かりやすいかたちで社会還元するよう努めます。

6-6 連携について

- ・国内外の動物園や水族館と、積極的な情報共有や連携を進めます。円山動物園だけでは、各動物の血統管理や域外個体群の維持は成り立ちません。繁殖計画や収集計画を立案するうえでも他園館との連携は不可欠です。他園館との連携により、希少種の保全や野外個体群の維持、包括的な普及啓発にも貢献します。
- ・海外との連携を強化します。飼育や運営に資する情報を入手するだけでなく、保全に関する国際的な動向を把握したり、生息地の近況や最新の知見などを取り入れます。
- ・とくにアジア圏の動物園、研究機関、保全団体などとの連携に力を入れます。円山動物園がアジア地域のネットワークの中核を担い、アジアの生物多様性保全に大きく寄与できるよう努力します。

- ・大学をはじめとする研究機関と連携を強め、動物園に関するあらゆる研究活動の充実と研究成果の共有化を進めます。
- ・生物多様性保全を掲げる札幌市と足並みをそろえ、札幌市の環境保全や、市民参画の推進、人材育成に貢献します。
- ・円山公園をはじめとする市内の公園施設や、地元の市民団体などとも共同して、地域の生態系保全や環境教育に協力して取り組みます。
- ・小中学校や高校をはじめとする教育機関、および博物館など教育系施設との繋がりを深め、環境教育活動を多角的に推し進めます。動物園を訪れる小中学校などに対し、園内での活動を有効にサポートできるように、学校教員との直接的な関係を築けるよう園内環境を整備します。また、園内に留まらず、出前授業や講演などの園外活動にも積極的に取り組みます。教育機関や市民団体と共同で、学校の副教材や学習資料を作成するなど、幅広い教育活動を展開します。
- ・動物園動物を対象に研究を行いたい大学や研究機関、または動物園内で普及啓発活動を行いたい市民団体など、動物園を活用したい人に、効率よく有効的に活用してもらえるよう、園内の体制を整備します。また、動物園からも積極的にアピールし、動物園の有効利用を促進させます。
- ・ガイドボランティアをはじめとし、様々な分野でボランティア活動を拡大し、動物園運営への市民参画を進めます。
- ・動物園で様々な動物を観察し体験してくれた来園者を、さらにほかの博物館や、ネイチャーセンター、エコツアー等の活動、野外観察イベントなどへ引きつぐ工夫を導入します。動物園での体験をきっかけに、他機関の活動や、実際の野外での観察行動につなげることで、保全活動や教育活動をより発展させることができます。共通の目的や理念を有する外部の諸活動と連携し、保全や教育のより大きな目的達成を目指します。
- ・動物園内で地元の生態系について学んだあと、円山公園や円山原始林で自然の動植物を観察したり、園内を流れる円山川で自然の動植物に触れたりするなど、近隣の生態系と動物園の有機的な連携を図ります。そのためにも地域の方々や市民団体との連携が欠かせません。
- ・外部との人脈やネットワークを、しっかりと園内に定着させます。各職員が築いた個別の繋がりを、円山動物園全体として役立てることができるよう、職員間で共有したり、協力関係を次の世代に引き継いだりできるように、連携関係の伝達と継続の体制を整備します。
- ・動物園は、様々な関係機関同士をつなぐ役割も担います。企業や公的機関、民間組織、市民などさまざまな人に利用してもらおう動物園だからこそ、それらの間を取り持つ役割も可能です。円山動物園自身も、様々な方々と、ともに学び、ともに考え、ともに成長していきたいと考えています。

7 実現するために

- (1) 円山動物園職員
- (2) 札幌市民
- (3) 各種団体（企業やNPO など）

園長はどうあるべきか、職員はどうあるべきか、何をすべきか。
行政はどうあるべきか、企業はどうあるべきか、何をすべきなのか。
ボランティアや、サポクラ、スポンサーのあり方も記述

8 コレクションプラン

9 コンプライアンス

9-1) コンプライアンス基本方針

円山動物園は法令遵守にとどまらず、社会常識に基づいて行動し、札幌市の定める内部規定や業務マニュアル等に基づいた業務を行い、お客様や地域から信頼される動物園を目指します。

9-2) 具体的な取組例

(1) 内部統制（ルールの遵守）

相互チェック体制、監査結果への適切な対応、内部ルールの明確化（既にあるものについては、その周知徹底を含む）、マニュアル作成、適切な業務引継ぎの実施

(2) 報告連絡体制

緊急事態発生時の連絡体制の明確化、事故等発生時の原因究明と再発防止、風通しの良い職場環境作り、職場外相談窓口の活用

(3) リスクマネジメント

非常事態に備えた訓練、安全衛生対策、対外的な信頼の確保（特に情報提供、広報、SNS 対策）、第三者評価

(4) 職員研修

内部研修、外部研修の計画的実施、法令に基づく研修、法令や内部規則等に関する知識についての研修等

10 その他